

1 目的

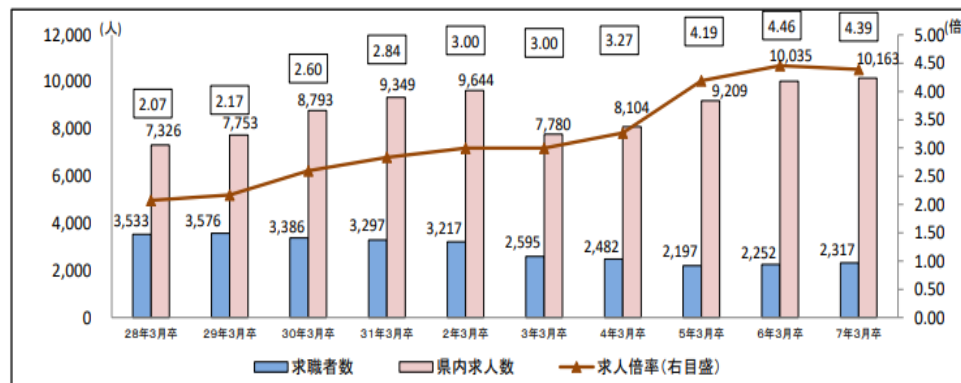
- 昨今の社会状況の中でも、県立施設として県内企業により必要とされる人材を供給できるよう、訓練科を再編する。
- 「第12次新潟県職業能力開発計画」の策定が予定されており、これに合わせ新潟県職業能力開発審議会委員のご意見もいただきながら、より企業と求職者の双方のニーズを踏まえた訓練科に見直すものとする。

2 背景

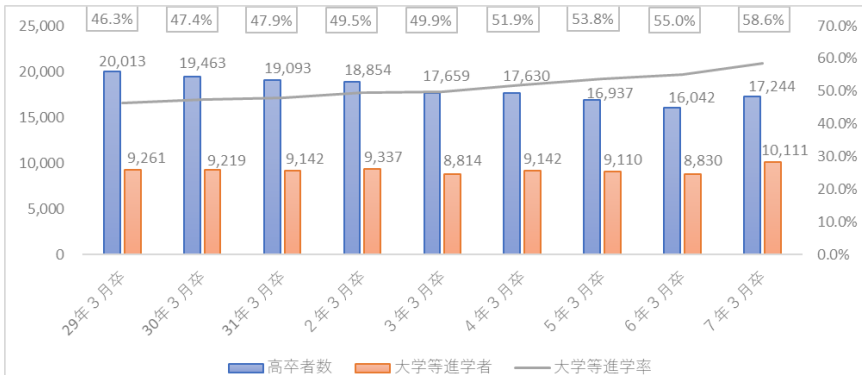
○高校生を取りまく状況

- ・ 高校生の有効求人倍率はR5年3月卒から急増して高止まりしており、R7年3月は4.39倍
- ・ 高校生の求職者は減少傾向であるが、就職希望者は全員就職しており、過去10年間就職率100%
- ・ 高校生の大学進学率は年々上昇しており、令和6年度卒では58.6%

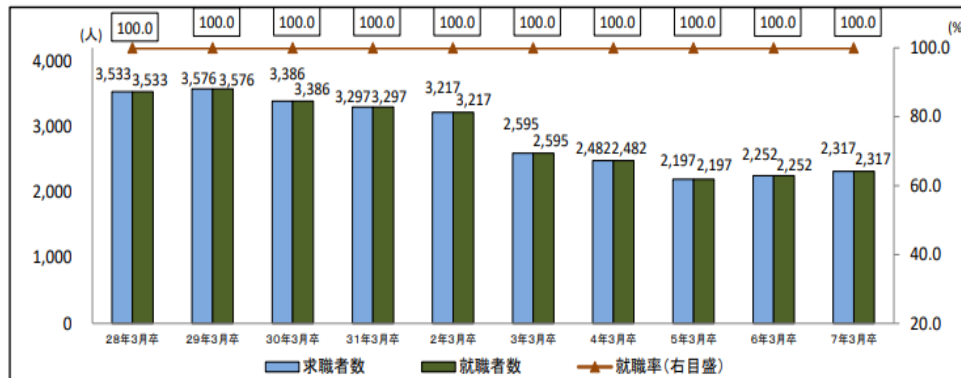
＜県内高校生の求人数・求職者数・求人倍率の推移＞



＜県内高卒者数・大学進学者数・大学進学率の推移＞



＜県内高校生の求職者数・就職者数・就職率の推移＞



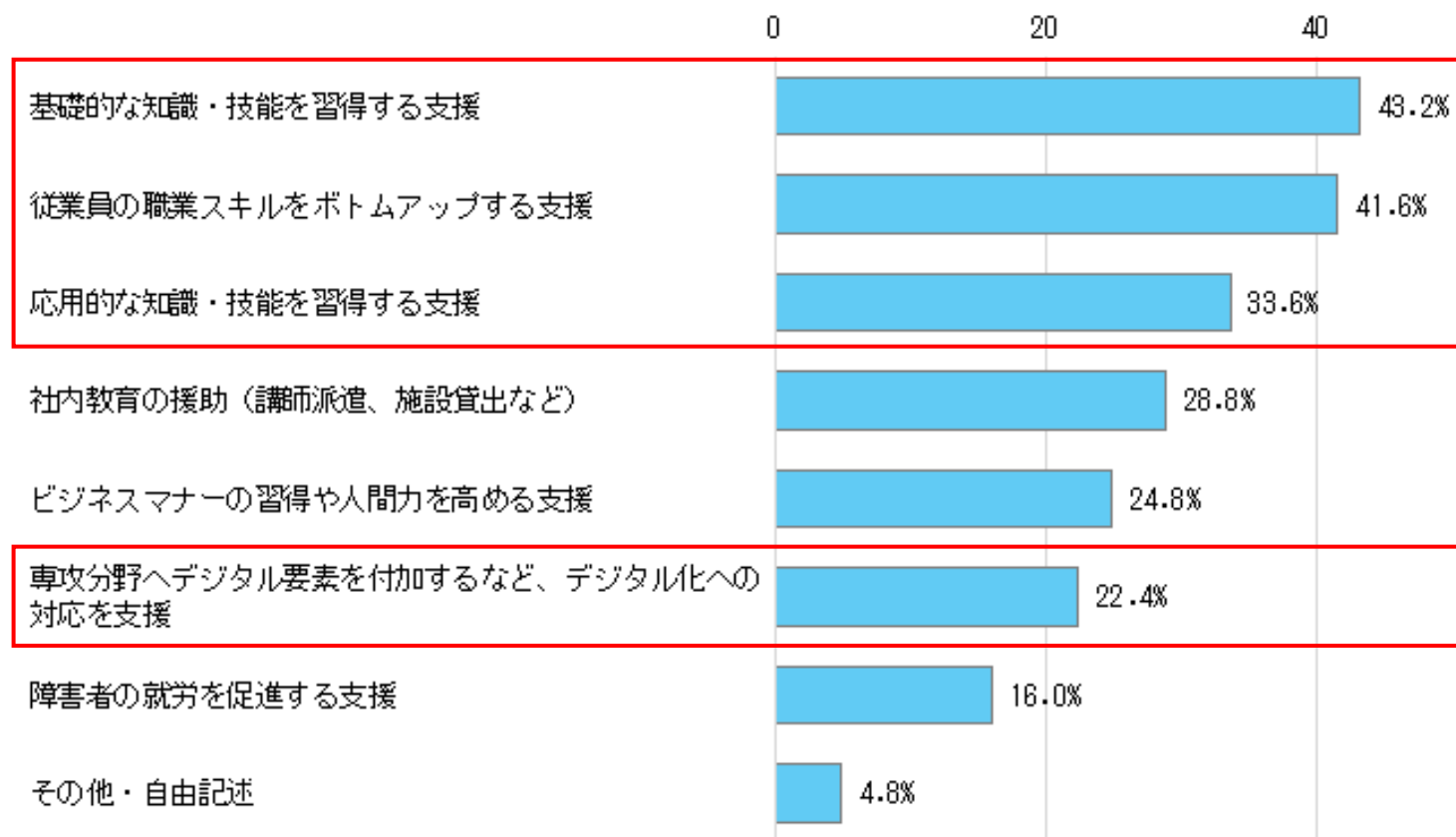
出典: 大学等進学状況調査(教育庁)、中学校・高等学校新規卒業予定者の求職動向調査結果(新潟労働局)

令和9年度テクノスクールの訓練科の改編について

2 背景

○企業ニーズ(職業能力開発について、今後、県は何を重点的に取り組むべきだと思いますか。)

- ・ 上位3項目で「応用的又は基礎的な知識・技能を習得する訓練」、「従業員の職業スキルをボトムアップする訓練」が求められており、従業員のボトムアップに寄与する基礎から応用までの様々な訓練の取組が必要。
- ・ また全ての訓練科でデジタル化への対応が求められている。



n=(125)

令和9年度テクノスクールの訓練科の改編について

3 施設内訓練の現状

- 学卒者向け施設内訓練入校状況（R7定員：175人）
学卒者を対象として、ものづくり分野を中心とした1～2年の訓練

**学卒者向け施設内訓練は入校率41.7%で低い状況が常態化
一方で就職率は98.9%でほとんどが県内に就職**

【訓練科別実施状況】

（単位：人）

校	訓練科	期間	定員	入校者数			3年平均		修了・就職者数						3年平均		就職率
				R5	R6	R7	入校	入校率	R4		R5		R6		修了・就職者数		
									修了	就職	修了	就職	修了	就職	修了	就職	
新潟	精密機械加工科	2年	20	6	5	3	4.7	23.3%	14	13	12	12	6	6	10.7	10.3	96.9%
	電気システム科	2年	15	13	7	9	9.7	64.4%	6	6	5	5	10	10	7.0	7.0	100.0%
上越	自動車整備科	2年	25	17	15	16	16.0	64.0%	14	14	21	21	15	15	16.7	16.7	100.0%
	メカトロニクス科	2年	20	12	3	13	9.3	46.7%	13	13	12	12	12	12	12.3	12.3	100.0%
三条	メカトロニクス科	2年	20	8	7	9	8.0	40.0%	10	10	11	11	7	7	9.3	9.3	100.0%
	工業デザイン科	2年	20	5	7	3	5.0	25.0%	8	8	15	15	4	4	9.0	9.0	100.0%
	生産システム科	2年	20	7	4	9	6.7	33.3%	12	12	10	10	7	7	9.7	9.7	100.0%
魚沼	電気施設科	1年	15	5	7	9	7.0	46.7%	15	15	5	4	6	6	8.7	8.3	96.2%
	建築施工科	2年	20	8	5	7	6.7	33.3%	10	9	14	14	6	6	10.0	9.7	96.7%
合計			175	81	60	78	73.0	41.7%	102	100	105	104	73	73	93.3	92.3	98.9%

期間2年の入校者数は当該年度の数、修了者及び就職者は当該年度に修了及び就職した人数

【参考】県外就職 R4:4人、R5:6人、R6:2人

令和9年度テクノスクールの訓練科の改編について

3 施設内訓練の現状

○ 離職者向け施設内訓練入校状況（R7定員：235人）

民間教育機関に委託困難なものづくり分野を中心とした2か月から2年間の訓練

**離職者向け施設内訓練は入校率が60%を超え、一定のニーズあり
就職率は77.5%でほとんどが県内に就職**

【訓練科別実施状況】

（R7.8月末現在・単位：人）

校	訓練科	期間	定員	入校者数			3年平均		修了・就職者数						3年平均		
				R4	R5	R6	入校	入校率	R4		R5		R6		修了・就職者数		就職率
									修了	就職	修了	就職	修了	就職	修了	就職	
新潟	自動車整備科(DS)	2年	20	15	8	20	14.3	71.7%	12	12	13	13	8	8	11.0	11.0	100.0%
	溶接科M(R6定員40→30人)	6月	30	16	14	10	13.3	44.4%	16	14	14	11	9	7	13.0	10.7	82.1%
	ビル設備管理科	6月	30	23	31	23	25.7	85.6%	23	14	30	16	23	12	25.3	14.0	55.3%
	個人開業基本コース	2月	10	4	8	6	6.0	60.0%	4	2	8	5	6	1	6.0	2.7	44.4%
	メカニカルベーシックコース	3月	15	6	4	4	4.7	31.1%	6	4	4	3	4	3	4.7	3.3	71.4%
	総合実務科	1年	20	5	6	8	6.3	31.7%	4	4	5	5	8	8	5.7	5.7	100.0%
上越	溶接科M(R5定員30→20人)	6月	20	11	15	13	13.0	65.0%	11	11	15	14	12	8	12.7	11.0	86.8%
	木造建築科	1年	15	13	13	10	12.0	80.0%	13	12	13	10	8	8	11.3	10.0	88.2%
	ビジネススタッフ科	1年	15	14	13	10	12.3	82.2%	13	13	11	11	9	8	11.0	10.7	97.0%
	電気設備工事コース(DS)	6月	30	9	12	7	9.3	31.1%	8	5	11	4	5	3	8.0	4.0	50.0%
三条	溶接科M(R6定員40→30人)	6月	30	23	33	25	27.0	90.0%	22	22	32	26	24	16	26.0	21.3	82.1%
合計			235	139	157	136	144.0	61.3%	132	113	156	118	116	82	134.7	104.3	77.5%

期間2年の入校者数は当該年度の数、修了者及び就職者は当該年度に修了及び就職した人数

【参考】県外就職 R4:2人、R5:5人、R6:3人

令和9年度テクノスクールの訓練科の改編について

4 改編の視点

- 社会情勢に合った実施規模にするとともに、4つの視点からニーズに合った訓練科の再編、カリキュラムの見直しを実施する。
 - ① 産業のデジタル化への対応
 - ② 在職者（受託生）を受け入れやすいカリキュラム
 - ③ 入校生のニーズを踏まえたカリキュラム
 - ④ 官民の役割分担



令和9年度テクノスクールの訓練科の改編について

5 学卒者向け訓練の改編素案

- 全ての訓練科でデジタル分野のカリキュラムを拡充し、デジタル知識の底上げに寄与
- 学卒者が興味を持つ科名や訓練カリキュラムが想像しやすい科名に変更し人材を確保
- 今後高卒者数の減少が見込まれることから、定員を2割以上を目途に減

現在 (R7)						方向性	改編素案 (R9~)			
校名	訓練科名	内容	期間	対象	定員		訓練科名案(仮称)	定員	改編の視点	変更内容
新潟	精密機械加工科	機械加工の基礎から応用まで学ぶ	2年	高卒	20	【変更】	スマートFA技術科	15 (▲5人)	①② ③	・機械加工からメカトロニクスに主軸を移行するとともに、AI・IoT、ネットワーク制御等、工場のスマートFA化に必要な知識・技能を習得する。
	電気システム科	電気工事関連分野での就職を目指す	2年	高卒	15	【変更】	電気工事科(1年制・2年制併用、入校時に選択)	15	①② ③	・1年次は第2種電気工事中心のカリキュラムとし、1年制、2年制が同時に受講。1年制は受託生の受入れも想定。 ・2年次は第1種電気工事士、電気通信の工事担任者等の高度な資格取得を目指す。
上越	自動車整備科	自動車の構造・性能・整備法を2年で習得	2年	高卒	25		変更なし	25	—	変更なし
	メカトロニクス科	機械・電気制御技術の基礎から応用まで学ぶ	2年	高卒	20	【変更】	スマートFA技術科	15 (▲5人)	①② ③	・メカトロニクスに加え、AI・IoT、ネットワーク制御等、工場のスマートFA化に必要な知識・技能を習得する。
三条	メカトロニクス科	機械・電気制御技術の基礎から応用まで学ぶ	2年	高卒	20		ものづくり総合科 ・スマートFA技術専攻 ・工業デザイン専攻 ・生産システム専攻	50 (▲10人)	①② ③	・入校後に適性や希望を見極めてから3専攻を選択する仕組みとし、入校後に進路選択ができることをPRして受講者の確保に繋げる。 ・メカトロニクスに加え、AI・IoT、ネットワーク制御等、工場のスマートFA化に必要な知識・技能を習得するメカトロ・スマートFA専攻を新設
	工業デザイン科	製品デザインに必要な知識・技能を習得	2年	高卒	20	【変更】				
	生産システム科	金属加工の基礎と総合的な技能を学ぶ	2年	中卒	20					
魚沼	電気施設科	電気工事に必要な知識・技能を習得	1年	高卒	15	【廃科】	離職者向け訓練科(1年)へ	—	①② ③	・離職者や受託生の入校促進を図るため離職者向けに移行
	建築施工科	建築工事に必要な知識・技能を習得	2年	中卒	20	【変更】	建築デザイン施工科	15 (▲5人)	①② ③	・建築に加えデザイン(CAD)、左官、電気工事等の多能工を目指す。 ・電気工事を希望する学卒者の受け皿としても対応
合計					175		合計	135 (▲40人)		

令和9年度テクノスクールの訓練科の改編について

6 離職者向け訓練の改編素案

- 全ての訓練科でデジタル分野のカリキュラムを拡充し、デジタル知識の底上げに寄与
- 全ての訓練科で受託生(企業に就職後、給料を得ながら職業訓練を受講)の受け入れを拡大
- 一定数の入校率を維持しており、セーフティネットの役割もあることから、定員数は同程度を維持

現在 (R7)						方向性	改編素案 (R9~)			
校名	訓練科名	内容	期間	対象	定員		訓練科名案(仮称)	定員	改編の視点	補足
新潟	自動車整備科 (DS)	自動車の構造・性能・整備法を2年で習得	2年	若年者	20	【変更】	変更なし	20	—	変更なし
	溶接科	多岐に渡る溶接関係の地元企業への就職を目指す	6月	離職者	30 (10人×年3)		変更なし	20 (10人×年2) (▲10人)	—	・一定数の入校生を確保していることから、定員を減して継続
	ビル設備管理科	ビル管理業務に必要な資格取得を目指す	6月	離職者	30 (15人×年2)	【廃科】	変更なし	30 (15人×年2)	—	変更なし
	個人開業基本コース	開業に必要な知識・スキルを総合的に学ぶ	2月	離職者	10 (10人×年1)		委託訓練へ	—	④	・特別な設備を必要としないことから委託訓練に変更
	メカニカルベーシックコース	機械製造の基礎知識や技能を習得する	3月	離職者	15 (15人×年1)	【変更】	パソコン・CAD科(6か月)	30 (15人×年2)	①②③	・機械系の設計及びCADに関する知識・技能を短期間で習得し、企業で即戦力となる人材を育成
	総合実務科	1年で自立と継続的な就労を目指す	1年	障害者	20	変更なし	変更なし	20	—	変更なし
上越	溶接科	多岐に渡る溶接関係の地元企業への就職を目指す	6月	離職者	20 (10人×年2)	変更なし	変更なし	20 (10人×年2)	—	変更なし
	木造建築科	木造建築の専門学科の基礎知識を習得	1年	離職者	15	変更なし	変更なし	15	—	変更なし
	ビジネススタッフ科	幅広い職種の即戦力として技能・知識を習得	1年	離職者	15	【廃科】	委託訓練へ	—	④	・特別な設備を必要としないことから委託訓練に変更
	電気設備工事コース (DS)	電気工事の知識習得と第二種電気工事士合格を目指す	6月	若年者	30 (15人×年2)	【変更】	デジタル制御科(6か月)	30 (15人×年2)	①②③	・企業実習を望まない声もあることから、離職者向け訓練に改編 ・電気とデジタルを組み合わせ電気工事から制御まで対応できる人材を育成
三条	溶接科	多岐に渡る溶接関係の地元企業への就職を目指す	6月	離職者	30 (10人×年3)	変更なし	変更なし	30 (10人×年3)	—	変更なし
魚沼	なし					【新設】	電気設備工事科(1年制・4か月併用) 電気設備工事科(1年) 第2種電気工事士取得コース(4か月) 第1種電気工事士取得コース(4か月)	15	①②③	・1年間で第1、2種電気工事士の取得とデジタル制御等の習得を目指すコースと4~7月で第2種、8~11月で第1種を目指すコースを同時に受講 ・個人のスキルに応じたコース選択を用意することで、受託生の入校を促進 ・定員は合わせて15人
合計					235		合計	230 (▲5人)		